

上島町消防だより

平成18年の出場件数状況

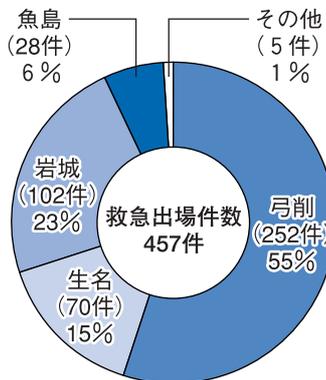
昨年の上島町消防署の出場件数をまとめましたので報告します。

全体の救急出場件数は457件で、地区別の出場割合は、弓削地区252件(55%)、生名地区70件(15%)、岩城地区102件(23%)、魚島地区28件(6%)、管外地区からの要請が5件(1%)となっています。

出場要因として最も多かったのは、急病303件(66%)、次に、一般負傷83件(18%)となっています。

搬送人員は、446件となっており、特に65歳以上の高齢者の搬送は、235件と全体の53%を占めています。過去3年問いずれも50%以上という高い割合を占めており、これは上島町の高齢化の進行と関係がありそうです。

平成18年地区別救急出場件数



AED普及のために

～AEDセミナー参加～



受講者 中央3名(左から佐伯、森貴、大林)
インストラクター 尾野村(左端)、水島(右端)

現在、東予地域では、AEDの普及に伴い、病院・医院・福祉施設に勤務する看護師及び医療従事者を対象にしたAEDセミナーを実施しています。心肺蘇生法並びにAEDを使用した救命処置を行う上で必要となる技術と知識を習得するものです。

1月27日、今治市においてAEDセミナーが実施され、本町消防本部から救急隊員2名及び魚島診療所の佐伯和恵さんが参加してきましたので、佐伯さんの感想を紹介します。



器具を使用した二人法による心肺蘇生法

「AEDセミナーを受講して」

佐伯 和恵

今回のAEDセミナーへ参加させていただききっかけは、診療所に勤務していること、何より高齢者の多い島を支えるもの一人として、少しでも島の方々の役に立てたらいふ思いからでした。

一般の私たちにもAED(自動体外式除細動器)という器械を使い、人命救助が出来るのですが、想像以上に体力と判断力のいる作業が多く大変でした。しかし、このセミナーの中で、人の命を救うのはまず「人の力」であり、そして、「何も出来ない」ではなく、「何か出来ることをする」ことが重要だと学びました。

セミナーを終え、私にも人を救う事が出来るという喜びを感じています。今後、AEDが普及し、さらに活動が盛んになり、一人でも多くの命が救えるようになることを願っています。また、微力ではありますが、この活動普及へのお手伝いが出来ればと思っています。



一人法による心肺蘇生法

上島町のみなさんも受講してみませんか。受講される際には、消防職員が親切丁寧に指導いたします。

春季火災予防運動実施中

3月1日～7日までの1週間、全国一斉に春の火災予防運動が実施されます。春先は空気が非常に乾燥し、風も強く、火災が特に発生しやすい気象状態となります。

上島町における過去30年(昭和52年～平成17年)の統計によると、3月中の火災件数は8件と比較的少なくなっています。しかし、屋外でのたき火による飛び火が原因の火災が53件発生しています。

火災はちょっとした不注意から発生するものです。火災予防について、皆さん一人ひとりが考え、たき火等による火災の発生を防ぎ、火災のないまちづくりを目指しましょう。



平成19年の出動件数

	火災	救急
1月	0	38
前年1月	0	46
前年比	0	-8
19年累計	0	38

平成19年1月31日現在

火災・救急 119

消防本部 77-3166
消防署 77-4118



農業講座

しまなみ農業だより 春ジャガイモの栽培ポイント

ジャガイモは排水が良く、適度に肥えたやわらかい砂地での栽培が適します。生育適温は15～20℃と冷涼な気温を好み、雨量の少ない地域が適します。各家庭でたくさん栽培されているとは思いますが、おさらいの意味で栽培ポイントについて解説します。

■栽培作型

栽培品種は、粉質で煮崩れしやすくコロッケやサラダに向く「男爵」^{だんしやく}「キタアカリ」や粘質で煮崩れしにくい「メイクイーン」^{おぞしもん}が春植えに適します。植え付けは、遅霜の心配が少なくなる3月中旬以降が無難です。

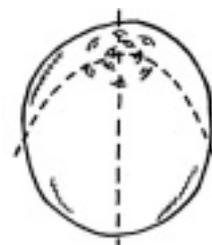
春じゃがいもの作型

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	主要品種
平坦地		○	●	●	■			男爵、メイクイーン

○植え付け ■収穫

■植え付け準備

種イモは、30g程度ならそのまま、大きいイモは頂芽群^{ちやうがぐん}を中心に2～4個に縦割りにする（図参照）と発芽が早く生育がそろいます。



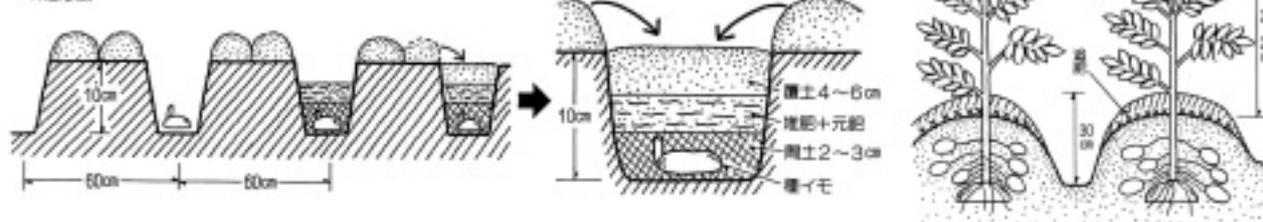
切ったイモは、切り口が乾くまで、陰干ししますが、切り口に直射日光が当たると腐りやすくなるので注意します。

畑の準備は、石灰は一般的な野菜畑なら必要ありません（石灰の施用は、そうか病の発生を多くします）。肥料は、イモに直接当たらないように植え付け時に溝にやる方法が一般的です。

■植え付け方法

まず、畑にうね幅60cm、深さ10cmの溝を切り、溝へ種イモの切り口を下にして、30cm間隔に置いていきます。イモがかくれるように3cm程度の土をかけます。その上から堆肥や化成肥料10m²当たり1kgをまいたのち、平坦に埋め戻します（図参照）。

耕種方法



■植え付け後の管理

芽が複数出てきたときは、1本にして他は切り取ります。草丈が10cmと20cmの時期の2回株元に少量の施肥をして、土寄せを行います。この土寄せが、イモの露出を防ぎイモの肥大を促します。

■ジャガイモガの被害防止

昨年、収穫後の貯蔵イモがたくさん腐りました。ジャガイモガによる被害がほとんどでした（写真）。

ジャガイモガの防除は、収穫の2週間前にオルトラン水和剤1000倍を散布して、イモへの産卵を防止します。また、収穫後のイモへも産卵するので、①掘り取り後に畑へ長い間イモを放置しないこと。②貯蔵するときは4mm目以下の網で覆いがの産卵を防止することが必要です。

